

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

新型コロナウイルス感染症は流行を繰り返し終息の兆しはみられない。おそらく地球規模で集団免疫を獲得するまでは以前のような社会は戻ってこない。しかし、欧米の社会の現状を見るとすでにインフルエンザ同様の扱いとなっているように思われ、日本もマスクと黙食をいつまでも続けることなく、思い切った策に変更すれば意外と早く免疫を獲得できる社会が取り戻せるようにも感じている。おそらく2023年度当初より感染症2類型から感染症5類型へと変更され、新型コロナウイルス感染症専用病床の空床補償もなくなると予想している。新型コロナウイルス感染症と戦う病院として利用者から避けられた感のある聖隷三方原病院が、5類への変更により、デルタ株の時のように極度に恐れられることなく、以前のように利用者が戻ってきてくれることを期待している。ワクチンも有料化になれば、おそらく接種の主体は診療所の先生方になると予想され、1日300名の接種を行っていた地域障がい者総合リハビリテーションセンターのアリーナもようやく本来の使用法に戻れることになる。

新型コロナウイルス感染症が一段落した後には「医師の働き方改革」への取り組みが待っている。B水準を選択するなら年度前半ぐらいを目処に申請する必要がある。今までの当直体制を3交代勤務制に変えることも視野に入れ、病院全体の時間外の労働実態をもう一度すべて一から見つめ直したい。そして各診療科の部長は、科員の労務状況を申請された超過勤務時間数より、過度に個人差が生じないよう定期的に業務調整してもらふことになる。そして質を落とすことなく夜間に労働する医師数を最小限で遂行できるような体制を整えた上で、超過勤務時間がどのぐらいになるのかを想定し、B水準の申請が不可避なのかを早急に結論づけたい。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な医療の提供

- ①医療安全管理の見直しと強化
- ②感染管理体制の評価と更なる充実

(イ) 質の高い医療の提供

- ①各部門の専門特化した医療体制の確立
- ②多職種連携による専門性の高い医療の推進
- ③専門性の高い看護師の更なる活用

(ウ) 新たな病院機能の提供

- ①手術室機能の充実と効率的な運用

- ②病院機能の充実に向けた DX 推進 (※1)
 - ③各種センター設立に向けた検討
 - ④地域障がい者総合リハビリテーションセンターの活用方法の検討
 - ⑤外来・画像診断部門の機能強化
2. ディーセント・ワークの推進と人づくり文化の継承 (※2)
- (ア) 「医師の働き方改革」への対応
 - ①医師の勤務実態の把握と適正な労働時間の管理
 - ②勤務環境改善への取組み
 - ③タスク・シフト/シェアの推進
 - (イ) 職員教育の充実
 - ①キャリア形成への支援
 - ②指導者育成の推進
 - ③OJT の強力な推進
 - (ウ) 医療人としてのプロフェッショナル意識の浸透
 - ①専門職としての技術向上と自己研鑽の推進
 - ②就業時間内における労働の質向上
 - (エ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着
 - ①専門医・専攻医採用の強化
 - ②看護師・介護職・看護助手の安定した確保
 - ③新専門医制度への対応 (基幹プログラムの追加)
 - ④臨床研究支援の検討と構築
 - ⑤職員エンゲージメントを高めるための取組み (※3)
 - (オ) 多様な雇用形態の促進
 - ①障がい者雇用の維持
 - ②エルダー職の活用
 - ③両立支援が必要な人達の雇用 (※4)
3. 地域より求められる病院機能の整備
- (ア) 各種認定施設としての機能の充実
 - ①高度救命救急センター
 - a 重症救急患者の受け入れ体制の充実
 - b 応需率の向上
 - ②地域医療支援病院
 - a 病診・病病連携による紹介・逆紹介の更なる向上
 - b 地域連携クリニカルパスの推進
 - ③地域がん診療連携拠点病院
 - a がんサポートセンターの継続的な運営
 - b がん地域連携クリニカルパスの活用推進
 - c がんゲノム医療連携の体制維持

- ④聖隷おおぞら療育センター
 - a 障がい者医療の質向上
 - b 医療体制の確立
 - c 地域連携の推進
- ⑤精神科病棟
 - a 西部精神科救急指定病院としての適正な病棟利用
 - b 精神科デイケアの再整備
- ⑥災害拠点病院
 - a 大規模災害に向けた地域連携
 - b 防災対策の強化（BCP 含む）
 - c 災害派遣医療チームの更なる育成
- ⑦基幹型臨床研修病院
 - a 臨床研修医の確保
 - b 指導体制・プログラムの充実
- ⑧基幹型認知症疾患医療センター
 - a 他医療機関との連携システムの整備
 - b 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携
 - c 相談支援体制の充実
- (イ) 新型コロナウイルス感染症への対応
 - ①新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての役割検討
 - ②新型コロナウイルス感染症医療のあり方の検討
 - ③地域と連携した新興感染症対策の推進
- (ウ) 利用者サービスの向上
 - ①地域のニーズに即した情報発信の強化
 - ②利便性向上を目指した ICT の活用（※5）
- (エ) 持続可能な社会への取り組み
- (オ) 病院ボランティアの再開
- (カ) 医療保護施設としての活動
- 4. 地域完結型医療実現への取り組み
 - (ア) 地域医療構想への対応
 - ①病床・外来機能の検討
 - ②公的医療機関等 2025 プランの更新（※6）
 - (イ) 地域包括ケアシステムの推進
 - ①入退院支援の質向上
 - ②福祉・介護施設との連携推進
 - ③アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進（※7）
- 5. 安定した経営基盤の確保
 - (ア) 2024 年トリプル改定の情報収集と対策検討（※8）
 - (イ) 施設基準の精度管理

(ウ) 職員の経営参画意識の向上

- ①生産性向上への取組み強化
- ②コストパフォーマンスの向上

- (※1) DX（デジタルトランスフォーメーション）：デジタル技術を活用しビジネスモデル、企業文化等を変革し競争上の優位性を確立すること。
- (※2) デイセント・ワーク：SDGsに記載の「働きがいのある人間らしい仕事」のこと。
- (※3) エンゲージメント：働く人の企業に対する愛着心や思い入れを表すもの。個人と組織が一体となり、双方の成長に貢献しあう関係とされている。
- (※4) 両立支援：子育て、介護、病気の治療などの環境におかれている人への支援。
- (※5) ICT：通信技術を活用したコミュニケーションによる産業やサービスなどの総称。
- (※6) 公的医療機関等 2025 プラン：地域医療構想会議にて議論された医療機関が地域内で担うべき役割等の内容を記載した資料。
- (※7) ACP：患者本人と家族が医療者などと意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うこと。
- (※8) トリプル改定：2024年度の診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬の3つの同時改定が行われる予定。

【数値指標】

サービス活動収益	23,311百万円	職員数	1,553.8人
外来患者数	935人	外来単価	23,000円
入院患者数	全体 610人 <一般 560人・精神 48人・結核 2人>		
入院単価	全体 71,400円 <一般 75,200円・精神 28,800円・結核 38,000円>		
病床利用率	全体 79.2%<一般 86.7%・精神 46.1%・結核 10.0%>		
紹介率	80%	逆紹介率	100%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2023年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2023年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

聖隷おおぞら療育センター【医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）】

医療型の障害児者入所施設として、更なる安全で質の高い医療提供と利用者の権利や生活の質確保という両輪のバランスを取りながらの事業継続を最優先課題とする。これに携わる職員養成として多職場・多職種職員カンファレンスによる知識や情報共有を推進する。高齢化した利用者の施設での看取りとなるアドバンス・ケア・プランニングへの取組みを引き続き推進する。懸案となっている小児科診療域から外れる成人年齢や強度行動障害のある利用者への診療体制を明確にする。

感染管理では新型コロナウイルス対策は依然として重要であるが、これに左右されない事業継続できる体制作りに注力する。入所利用者は家族との直接面会の継続、ショートステイにあっては既存病棟を利用した専門病床ゾーンを創出することで、途切れない安定したサービス提供を目指す。

働きやすい職場環境を整備し、介護・看護職員の人材確保と育成に努める。職員の安全衛生やメンタルヘルス対策、近年指摘されるカスタマーハラスメント等の苦情対応する体制を作る。

ICTの推進では、障害等による氏名確認が難しい利用者に対する本人認証のシステム化や介護ロボット等の導入を検討する。

事業継続BCPを作成し、訓練等を適時実施することでより高い精度になるよう見直しを行う。

在宅の重症心身障害児者支援では、期間限定利用者の退所時支援として共同カンファレンスのオンライン開催や入退院支援看護師の関わりを継続する。また、かかりつけ医療機関や事業団内障害児者施設との連携強化や情報共有を推進し、利用者が安心して地域生活を継続できるよう支援していく。

あさひ【生活介護】

新型コロナウイルス等感染対策を徹底しながら安定した事業継続ができる体制を確保する。

看護・介護職員の育成と、高まる医療的ケアの提供に必要な適正人員配置に努める。

利用ニーズに応じたサービス等提供と経営効率を維持しながら地域における重症心身障害者の生活を支える役割を果たす。

ICTの推進では、導入する利用記録システムの活用により業務効率化と職員負担軽減を図る。

児童発達支援センターひかりの子【児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援】

新型コロナウイルス等感染対策を徹底しながら安定した事業継続ができる体制を確保する。

看護・介護職員の育成と、利用児童の発達支援に必要な適正人員配置に努める。

地域拠点である児童発達支援センターとして、周辺各サービス事業所等との連携に努め、重症心身障害児や医療的ケア児のニーズや支援状況等の情報を的確に把握し、必要とされる役割を果たす。

ICTの推進では、導入する利用記録システムの活用により業務効率化と職員負担軽減を図る。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個人の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供
3. 職員教育の充実
4. 業務改革の更なる推進

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	1,907,175 千円	141,825 千円	62,000 千円	122,000 千円
職員数	188.6 人		9.5 人	18.0 人
入院患者・利用者数	126 人	13 人	—	—
入院単価（医療）	31,000 円	—	—	—
外来患者・利用者数	22 人	—	13.6 人	36 人
外来単価（医療）	4,800 円	—	—	—
単価（福祉）	9,700 円	31,000 円	15,940 円	13,000 円

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症クラスターを経験し感染への対応力や介護能力が大きく向上した。利用者並びに職員のワクチン接種の促進と、感染防止対策の強化により利用者の安全と安心確保に努め、高い稼働とともに超強化型の類型を維持し事業を継続することができた。

2023 年度は、より高度な感染・防災 BCP の完成により、コロナ禍においても、医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイの受入れなども積極的に取り組み、地域に必要とされる老人保健施設として役割を果たしていく。そのため求められる医療ニーズに対応できる組織の見直しを行い、フレイルから終末期まで含めた事業を地域と連携し展開すると同時に情報発信力を強化する。また、施設の資源・人材を活用した地域貢献活動を推進する。特に ACP の形成においては「私の願い」等を活用し在宅や他施設につなげる取り組みをする。そして 2022 年度に導入した福祉機器・ICT 機器の有効活用により、利用者の安全・安心と職員の働きやすい職場づくりの両立を目指す。事業の遂行においては常に理念に立ち返り、理念の継承に力を注ぐ。そして無料低額事業については、引き続き生活困窮者の経済的支援を行うとともに、自立生活に向けて他の社会サービスと連携した援助も行う。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進
 - (ア) 在宅復帰、在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供
 - (イ) 第 9 期介護保険事業計画に向けた準備
 - (ウ) 地域との連携を含めたショートステイの質の向上
 - (エ) 地域総合事業と連携した通所リハビリテーション
 - (オ) 行政、医療、施設、居宅等関係機関との連携強化
2. 安定的に事業継続できる体制の構築
 - (ア) 高い医療ニーズに対応できる組織の見直し
 - (イ) 感染・災害 BCP(事業継続計画)の完成
 - (ウ) 選ばれる施設づくり
 - (エ) 聖隷三方原病院後方支援施設としての連携強化
 - (オ) 職員ひとりひとりの経営参画意識の向上

3. 安全・安心で質の高いケアの提供

- (ア) 個々の利用者にあった医療・ケアの提供
- (イ) 利用者にとって居心地のよい環境づくり
- (ウ) 各部門の情報共有と協働
- (エ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の活用と地域連携
- (オ) リスク分析と対策

4. 次世代を担う人材育成と働く支援

- (ア) 理念と経営方針の浸透
- (イ) パーソン・センタード・ケアに基づく認知症への対応力向上
- (ウ) 高い医療ニーズに対応できる人材の育成
- (エ) ディーセント・ワークを目指した職場環境づくり
- (オ) 福祉機器・ICT 機器の効果的活用
 - *ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）

5. 地域社会に貢献できる施設づくり

- (ア) 地域貢献活動の推進強化
- (イ) 無料低額事業（生活困窮者支援）の推進
- (ウ) 地域防災協定の推進
- (エ) ボランティア、学生実習、体験学習の受け入れ推進

《無料又は低額介護老人保健施設利用事業》

当施設は、経済的理由により適切な介護を受けられない人に対し、無料または低額でケアを行う事業を展開している施設である。2023 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な介護を受けやすい環境を整えていく。

【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	126 人	28 人	3 件
	入所 117 人	介護保険 27 人	
	短期入所 9 人	介護予防 1 人	
単価/人	15,250 円	13,000 円	9,000 円
サービス活動収益： 819,000 千円		職員数： 93.4 人（常勤換算）	

総合病院 聖隷浜松病院

2022年度は「Shift」をテーマに、各部門で時間・場所・設備の使い方を見直すことでリソースの最大活用が進み、電子問診票導入をはじめとする医療DXの推進に向けた取り組みが開始される1年となった。診療面においてはコロナ感染症第7波、第8波の影響を大きく受け、陽性患者の対応のみならず、職員の感染や濃厚接触による就業制限のため、現場には大きな負荷がかかった。増大するコロナ患者を受け入れるべく、2度にわたる一般病棟の閉鎖や全科診療制限など苦渋の決断をせざるを得なかった。また、不安定な世界情勢を背景に物価高や光熱費高騰、安定しない医療資源の供給状況もあり、厳しい状況下での事業運営が求められた。

With コロナ、医療情勢、世界経済をはじめ変化が激しい現代こそ、その様々な状況に応じてチームのあり方を柔軟に変えることが求められる。2023年度は「Teaming」をテーマに、院内そして事業団内連携も含め、変化に対応できるチームを構築する。そのために、情報共有の在り方を模索し、職員間の心理的安全性を高めることで恐れのない組織を目指す。

8月には新S棟が開設し、駐車場、外来診察室、手術室、病棟が拡張する予定であり、長年の課題であったスペース不足の問題も改善される。60年築き上げてきた伝統を継承しつつ、ハード面だけでなくソフト面においても利用者ニーズに応じていき、当院がやるべき医療を実現する。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します
- 環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

(ア) 選ばれ続ける病院

- ①新入院患者数 1,800人/月以上
- ②患者満足度調査結果（LINE2回）6項目
病院に満足している 肯定回答率90%以上
- ③病院BSC・ロールモデルに関する指標
（職員満足度調査結果 2問選定）
BSCのテーマを知っている 肯定回答率90%以上

(イ) チームで目指す働き方改革

①職員満足度調査結果（デスクネッツ 2 回）5 項目
要望解決数 5 件/回以上

②超勤時間

医師：80 時間/月超 7 名/月以下

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 高度・急性期医療の提供

(ア) 特色ある医療の推進

①新規がん患者数 155 件/月以上

②救急車搬送件数重症・中等症件数 290 件/月以上

③かかりつけ患者の当日紹介受入率 95%以上

④特定入院料の各病棟稼働率 80%以上

(イ) 地域連携の充実

①初再診患者数

初診患者数 125 件/日以上

再診患者数 1,525 件/日以下

②DPCⅡ期以内比率

退院 75%以上

転院 30%以上

③事業団施設連携件数

紹介初診患者数(同一開設者) 220 件/月以上

院外での検査実施人数 20 件/月以上

(ウ) 施設・設備の有効活用

①S4 病棟稼働率 80%以上

②平日の予定入院数の差異

月～木の予定入院数差異 15 人/週以下

③8:30-17:00 の手術室稼働率

中央手術室 68.5%以上

④17 時以降の予定カテ件数 10 件/月以下

3. 医療環境・資源の充実

(ア) 診療プロセスの見直し

①入院手続きに関する工程 工程数(4 月比) 5%減

②外来終了時間 17 時以降終了数 184 件/月以下

(イ) 利用者目線の DX 推進

①電子問診票導入 診療科数 10 科以上

②聖隷アプリダウンロード数 10,000 件以上

③診療情報提供書の PDF 化率

PDF 件数/紹介件数 80%/月以上

4. 医療の質と安全の保証

(ア) 安全で質の高い医療の推進

①患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.27%以下

②麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率

事象レベル 1 以上 0.25%以下

③転棟・転落による負傷発生率(入外含む)

事象レベル 2 以上 0.85%以下

④RRS 件数 15 件/月以上

⑤医師 IA レポート数	50 件/月以上
⑥手指衛生実施率	
医師	55%以上
看護	81%以上
事務・医療技術	83%以上
⑦職場防災訓練(実践型)実施率	100%

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 人材育成と活用

(ア) 共に育ち認め合う職場づくり	①心理的安全性を評価する指標 (職員満足度調査結果 2 問選定)	
	肯定回答率	60%以上
	②集合研修の職員満足度	
	人間関係づくりに関する項目	80%以上
	③職員同士が交流できるイベント開催	4 回以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 安定した財務

(ア) 年度予算の達成	①収益（サービス活動収益）	36,442 百万円以上
	②費用（サービス活動費用）	35,137 百万円以下
	③利益（税引前当期活動増減差額）	500 百万円以上
	④S 棟事業収益(増収)	191 百万円以上

【数値指標】

サービス活動収益	36,442 百万円		職員数	2,212 名	
入院単価	93,500 円	入院患者数	690 名	病床利用率	92.1%
外来単価	23,500 円	外来患者数	1,650 名	平均在院日数	10.5 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率	70.0%	

【地域における公益的な取組】

当院は、地域で暮らす既存の福祉制度には該当しない疾患を抱えた長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに行なう相談会を定期的に開催している。2023 年度は、コロナ感染症拡大の状況をみながら、ハローワーク相談会を 12 回、社会保険労務士の相談会を 4 回開催する計画としている。また、がんに罹患し、就労継続に困難をかかえる療養者と事業主に対し、商工会議所と連携し、当院の患者支援センターが相談の窓口を担っており、継続していく。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2022 年度は 12 月までに 1 名の利用があった。引き続き、社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々へ向けた受入体制の確保と充実を図っていく。

聖隷淡路病院

2023年度は疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応できる病院機能を活かして、訪問診療・外来診療の更なる充実、病床再編と管理の徹底による病床高稼働、保健事業のさらなる拡充を図る。淡路島において地域から望まれる病院像を明確にし、地域医療の中で役割を果たしていく。また、地元企業との協働により新たな事業も企画し推進する。

淡路市内の聖隷関係施設との連携を強化し、訪問看護ステーションのサテライト事務所の病院内移転や看護師・理学療法士の継続した人事交流等を行う。聖隷各事業の質の高いサービスをシームレスに利用者に提供することで、地域における聖隷ブランドの付加価値を高めていきたい。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【経営方針】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す
4. 経営基盤を確立する

【事業・運営計画】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
 - (ア) 病床の安定稼働に向けて入院料の届出を変更し、病床を再編する
 - (イ) 地域包括ケア病棟（病床）の機能を幅広く活用し、病床管理を徹底する
 - (ウ) 在宅療養支援病院として訪問診療・在宅医療事業を積極的に推進する
 - (エ) 質の高いリハビリテーションにより、急性期から在宅まで切れ目のないサービス提供を行う
 - (オ) 各診療科の診療体制の充実とともに診療科の垣根を越えた相互協力体制を構築する
 - (カ) 保健事業の推進組織を再編し、地域住民の健康増進と地元企業の健康経営に貢献する
 - (キ) 総合診療の拡充により、断らない初療に努めるとともに、より複合的な疾患に対する診療能力を発揮し、家族・社会・行政とも連携した診療提供や、在宅医療・終末期医療を包括的かつ総合的に行う
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
 - (ア) 働き方改革を推進し、職員が働きやすい労働条件・職場環境を整備する
 - (イ) 組織体制・委員会・会議の再構築によりガバナンスを強化する
 - (ウ) 各職種の専門性向上と質の高いチーム医療を実践する
 - (エ) 病院機能評価（日本医療機能評価機構）の結果を元にさらなる質改善に努める
 - (オ) 医療安全管理体制を強化する

- (カ) 院内感染対策を徹底する
- (キ) 医療倫理的な問題を審議し、その結果に基づいて医療提供を行う
- (ク) クリニカルパスを運用し、医療の標準化と質の向上を図る
- (ケ) 初期臨床研修における地域医療研修と総合診療専門研修のプログラムを充実させる
- (コ) 地域に根差した人材を確保し定着させる
- (サ) 各部門の役職者と高い技術・知識を有する専門職を育成する
- (シ) 利用者からの声を活かし、院内の環境改善に努める

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

- (ア) 地域の医療機関との役割分担を明確にし、地域連携の推進により、入退院支援・在宅復帰支援を充実させる
- (イ) 淡路市内開設助産院への支援と淡路島内外（淡路・洲本・明石）の産後ケア事業を継続して行う
- (ウ) 淡路市内の聖隷関係施設との連携を強化する
- (エ) 地域に見合った遠隔医療を検討し、オンライン診療を行う体制を整備する
- (オ) 地元企業と協働した新たな事業を企画し推進する

4. 経営基盤の確立

- (ア) 医療資源を最大限に活用し、入院・外来の患者数を安定的に確保する
- (イ) 収益に見合った費用の削減に取り組む
- (ウ) 職員一人一人が経営参画意識を高め、経営目標の達成に向けて継続的に経営改善活動を行う

5. その他

- (ア) 防災・防犯活動の推進とBCP（事業継続計画）の策定を行う
- (イ) 省エネルギー、資源循環、社会貢献活動に積極的に取り組む

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民に向けた健康啓発活動を実施する

【数値指標】

サービス活動収益		2,205,200 千円	
入院患者数	129 人/日	入院単価	33,800 円
外来患者数	130 人/日	外来単価	11,500 円
		職員数	200 名
		病床利用率	85%

《無料又は低額診療事業》

無料又は低額診療事業を行う施設として広く生活困窮者の受け入れを行い、基準 10%以上の実績を維持する

聖隷横浜病院

2022年度は、終わりの見えない新型コロナウイルス感染症への対策を継続する中、地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、病病・病診連携ならびに市内救急隊など行政との連携強化に全力を尽くし地域貢献に努めた。新型コロナウイルス感染症の感染管理は困難を極め、当院においても合計3回クラスターが発生した。特に7月後半からのクラスターは大規模なものとなり、37日間におよぶ新規入院の受け入れ停止を余儀なくされた。この間150名を超える職員の感染者、濃厚接触者が発生し、非常に苦しい中での病院運営を経験した。新型コロナウイルスの専用病床に関して、10月より神奈川モデルの重点医療機関協力病院・陽性患者受入病床（国の重点医療機関に相当）に切り替え、第8波の地域医療逼迫に向けて運用を開始した。

新型コロナウイルス感染症以外の取り組みとしては、2年振りに市民公開講座を開催し、隔月でYou tubeを用いた市民公開講座の配信を行った。また、各医療機関からの紹介に対し、即日返信率をあげる取り組みを行った。これらの取り組みにより、外来患者数は2021年度対比で110%を超え、感染拡大前の水準に戻す事ができた。これまで当院を利用したことがない多くの方々がワクチンや広報などをきっかけに当院を利用していただき、地域に根ざした病院としての基盤を再構築することができた。

2023年度も引き続き、医療サービスを必要とする地域の多くの方々に良質な医療を提供し続けるため、救急及び外来診療体制の充実、各医療機関との連携の強化、広報活動の充実、さらに地域の健診業務拡大を行っていく。併せて、関東地区事業団連携を強化し地域から愛されつづける病院づくりを職員と共に進めていく。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【運営方針】

1. 安全で良質な医療の提供 **事業**、**運営**、**財務**
 - (ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の強化 **事業**
 - ①With コロナにむけての感染管理体制の確立 **事業**、**運営**
 - (イ) 救急診療体制の充実 **事業**
 - ①救急医療の体制を充実し地域医療への貢献 救急車受け入れ年間4,500件 **事業**、**財務**
 - ②「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の強化 **事業**
 - (ウ) 外来診療科体制の充実 **事業**、**運営**、**財務**
 - ①午後の外来診療の増枠 **事業**、**運営**
 - ②受付および問診体制の見直し **事業**、**運営**
 - ③総合的な待ち時間対策の検討 **事業**、**運営**、**財務**
 - ④新たな外来機能の構築 **事業**、**運営**、**財務**
 - ⑤医師事務補助体制の強化 **事業**、**運営**

- ⑥専門看護師・認定看護師・特定行為看護師の活動の場の拡大 **事業、運営**
- ⑦維持透析利用者の増加、ならびに送迎事業導入の検討 **事業、運営、財務**
- ⑧循環バス利用者の促進及び利便性向上に向けた検討 **事業、運営**
- (エ) ドック・健診事業の充実 **事業、運営、財務**
 - ①予約電話受入体制の強化、および健診予約枠の拡大 **事業、運営、財務**
 - ②病院利用者へのドック・健診の推奨 **運営、財務**
 - ③日曜乳がん・婦人科検診の拡大 **事業**
- (オ) 病院機能評価の認定更新 **事業**
- 2. 地域包括ケアシステムの推進 **事業、運営、組織、財務**
 - (ア) 地域完結型医療の実践 **事業、財務**
 - ①ケアミックス病院として各機能病床の安定稼働
(回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟 各 90%) **事業、財務**
 - (イ) 訪問看護ステーションとの連携強化 **事業、運営、組織、財務**
 - ①在宅医療を必要とされる利用者の獲得 **事業、運営、財務**
 - ②有効な人事交流とケアサービスの質向上 **事業、組織**
 - (ウ) 地域連携及び広報活動の強化 **事業、運営、組織**
 - ①診療所からの紹介件数：月間 850 件 **事業、組織**
 - ②顔の見える広報活動（市民公開講座・YouTube）の実施 **事業、運営、組織**
 - ③効果的な病院ホームページの更新 **運営、組織**
- 3. 多様な人材確保と育成 **事業、組織、運営**
 - (ア) 人材確保とディーセント・ワークの推進 **事業、運営、組織**
 - ①求人広報の充実と医局および養成校等へのアプローチ強化 **運営、組織**
 - ②障がい者雇用と定年後における雇用延長の推進 **運営、組織**
 - ③働き続けたいと実感できる職場づくり **事業、組織、運営**
 - ④職員の心と身体健康管理の推進 **事業、運営**
 - (イ) 次世代リーダーの育成 **事業、組織、運営**
 - (ウ) コンプライアンス教育の推進 **組織、運営**
 - (エ) 地域に求められる医療を推進し続ける職員の育成
- 4. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践 **事業、運営、組織、財務**
 - (ア) 人員配置に見合った収益確保（人件費率：年間平均 58%） **運営、財務**
 - (イ) 手術室の効率的な稼働による件数増加：年間 2,000 件（手術室実績） **事業、運営、財務**
 - (ウ) 事業団内連携の推進 **事業、組織**
 - (エ) 病床再編による効率化と収益性の向上 **事業、組織、運営**
 - (オ) サイバー攻撃・大規模災害等に対応した BCP（事業継続計画）の策定
ならびに訓練の実施 **組織、運営**
 - (カ) 自然環境に対する取り組み **事業、運営、財務**
 - ①環境に配慮した資源活用（フードロスの活用、薬品、物品の適正使用） **事業、運営、財務**
 - ②食材の地産地消の推進 **事業、財務**

- ③照明・空調機器の高効率化による CO₂ 削減 事業、財務
- (キ) 病院設備および医療機器の管理体制の充実 事業、運営、財務
- (ク) 無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持 事業
- 5. 最適な環境づくりの推進 事業、組織、運営
 - (ア) 働き方改革関連法への対応 事業、運営
 - ①働き方改革を見据えた診療体制の検討 事業、運営
 - ②慣例に捉われない業務手順の見直しやスリム化 運営
 - (イ) Wi-Fi 利用エリアの拡大の検討 事業、運営
 - (ウ) 安全・感染対策に配慮した療養環境と労働環境の整備 事業、運営
 - (エ) インフラ（電子カルテ、ネットワークなど）の整備の検討 事業、運営、財務
 - (オ) 職種の垣根を超えた協働による、自己及び組織成長の推進 組織、運営
 - (カ) 共に育ち、互いを認め合う組織づくり
 - (キ) 聖隷 DX の推進
 関連項目：1-（ウ）-②、1-（ウ）-③、5-（ア）-②

【数値指標】

サービス活動収益	9,680,500 千円	職員数	701 名
外来患者数	600 名	外来単価	17,300 円
入院患者数	310 名	入院単価	56,800 円
訪問看護介護保険単価	10,300 円	訪問看護介護保険訪問数	852 件
訪問看護医療保険単価	11,300 円	訪問看護医療保険訪問数	265 件

<地域における公益的な取り組み>

- ・ 無料健康相談会の開催
- ・ ひとり親世帯への生活必需品の無償提供（職員家庭からの募集品）
- ・ 寄付型自動販売機の設置

<無料低額診療事業>

無料低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、基準 10%以上の実績を維持する

聖隷佐倉市民病院

2022年度はコロナ診療と一般診療の両立、診療報酬改定による加算取得と減算回避対応、病院機能評価4回目の更新など、質向上と経営改善の両面に取り組んだ1年であった。第7波では職員や入院患者の感染拡大に対し、速やかな判断の上、B4病棟を休棟しコロナ患者受入病棟を再開した。また、11月には一般病床の満床対策としてB4病棟の一部を再開した。日々変化する環境に対し、柔軟性と機動力を活かし、十分な人員配置が整わないなかにおいても患者の受入体制の強化に取り組むことができた。

2023年度は3ヵ年経営計画の最終年にあたる。経営的な自立と全床稼働に向けた足がかりの年として、病院機能の強化、職員の採用・育成に取り組んでいく。また、2023年度は「ひとり残らずファンにするっ！」に加え、2022年度に培った「柔軟性と機動力」を活かした病院運営、そして、職員一人ひとりが病院運営の主体である「We”で語ろう」を合い言葉に地域医療への更なる貢献を目指して取り組んでいく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします。

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

【事業・運営計画】

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり
 - (ア) 地域のニーズ（医療・保健・福祉）に応えられる体制の強化
 - ① コロナ診療と一般診療の両立
 - ② 救急車受入体制の維持（年間2千台以上）
 - ③ 予防から終末期・在宅まで当院機能を活かした健康社会への貢献
 - (イ) 利用者に優しい愛ある医療の提供
 - ① 病気も心情もみられる全人的医療の提供
 - ② 利用者の立場に寄り添ったコミュニケーション力の強化
 - ③ 待ち時間の中身の把握と待ち時間の有効活用の検討（実態調査の実施）

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供
 - (ア) 管理体制の強化
 - ①医療安全管理体制の強化と職員参画
 - ②感染管理体制の強化と職員参画
 - (イ) 自立した職員の育成
 - ①質確保・向上への取り組み
 - ②職員研修の充実
 - ③人材育成の強化
 - (ウ) 利用者の安心安全のため院内外の活動強化
 - ①利用者の安心につながる情報発信、クリニカルインディケータの充実(HP への掲載)
 - ②利用者の声を活かせる患者目線での安心できる医療サービスの提供

3. 院内外の連携を強化し、地域から信頼されるオンリーワンの病院になる
 - (ア) 地域社会との繋がり強化
 - ①地域ニーズの把握と外部との連携強化(1 週間以内の返書の徹底)
 - ②当院の魅力をアピール
 - (イ) 病院一丸となったチームワークの活用
 - ①タスクシェアリングによるチーム医療の充実
 - ②職員どうしの顔が見える関係の強化

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境整備
 - (ア) ディーセント・ワーク(人生と両立できる働きがいのある仕事)環境の整備
 - ①職員満足度向上に繋がる健康経営(職員ドック受診率 UP)
 - ②「ワークライフバランス」を充実できる環境の実現
 - ③NO ハラスメントの徹底
 - ④働き方改革のさらなる推進
 - (イ) 医療人としての誇りをもって成長できる環境整備
 - ①学術支援・研修環境の DX 化
 - ②職員に対する新たな表彰や認定制度の検討
 - ③当院の強みを職員が知る

5. あらゆる環境に対応できる持続可能な経営基盤の構築
 - (ア) 経営基盤(内部環境)の強化
 - ①利用者の受入に応えられる体制の強化
 - ②戦略的な収益確保とコスト管理
 - ③それぞれの役割に応じた経営参画に寄与できる職員の育成
 - ④DX 化の推進

(イ) 医療圏での役割発揮とともに外部環境の変化に耐えうる基盤整備

- ①大規模災害、新興感染症に対するBCPの強化
- ②SDGsへの積極的な取り組み
- ③カーボンニュートラルの推進

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施
- (イ) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援

せいれい訪問看護ステーション佐倉 / せいれいケアプランセンター佐倉

2022年度は新型コロナウイルス感染症患者が安心して療養生活が過ごせるよう感染者への訪問を行った。在宅における感染症対策及び整備を強化し利用者、職員の安全・安心に努めた。また、訪問看護では理学療法士を1名採用し、リハビリの充実を図った。2023年度は、地域に根差した支援が行えるよう教育体制の強化及び事業拡大を目指していく。また、在宅から病院、在宅へとシームレスな支援が行えるよう病院との連携を強化するとともに行政機関とも情報交換を密に行い地域包括ケアシステムに参画していく。

【数値指標】

〈病院〉

項目	予算	項目	予算
外来患者数	830名	外来単価	15,200円
入院患者数	314名	入院単価	55,100円
病床稼働率	83.3%	職員数	815名

〈健診〉

項目	予算	項目	予算
健診受診数	192名	健診単価	18,300円

〈訪問看護〉

項目	予算	項目	予算
介護保険利用回数	445件	介護保険単価	8,600円
医療保険利用回数	175件	医療保険単価	10,550円

〈ケアプランセンター〉

項目	予算	項目	予算
介護保険利用回数	139件	介護保険単価	16,740円

〈無料又は低額診療事業〉

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い基準10%以上の実績を維持する。

浜松市リハビリテーション病院

2023年度は、2008年から受託している浜松市の指定管理者として4期目の最終年となり、2024年度指定管理更新に向けた準備の年となる。時代に合ったサービスを今後も継続して提供できるよう、浜松市と共に将来構想計画について協議を行っていく。

これまで当院は、「リハビリテーションにおけるリーディングホスピタル」を目指し、えんげ、スポーツ、高次脳機能の3つのセンター機能に加え、先進機器の導入やボツリヌス治療など、特色あるリハビリテーション医療を展開してきた。加えて3年以上続くコロナ禍において、この地域のリハビリテーション医療を止めないよう診療体制の維持に尽力してきた。感染症対応を数多く経験し、現場には迅速な対応力と強い一体感が備わった。2023年度はこれまで培ってきたものを、より「安全に」、「効率的に」、「継続的に」利用者に提供するためにテーマを「調和」とし、職員がやりがいを持って主体的に役割を発揮できる病院を目指す。そのために、バランス良く質の向上と業務の効率化を進め、専門職がより専門性を発揮しやすいようタスクシェアを促進していく。

地域連携については、2022年度に新設した「地域連携・患者サポートセンター」が中心となり、前方後方連携に力を入れることで入退院支援をさらに充実させるとともに、訪問診療を展開し地域のリハビリテーション医療と退院後の生活を支援する体制の充実を図る。

地域と共に成長していく関係を築くことで、利用者に信頼していただける、地域の医療介護従事者に安心して頼りにしていただけるリハビリテーション病院を目指していく。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用者の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い連携体制を構築する
4. 職員の資質・技能向上、その育成と人材確保に努める
5. 健全な経営基盤を確立する

【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

【2023年度事業テーマ】

「調和」

【2023 年度 事業目標・年度重点施策】

1. 効果的・効率的なチームづくり
 - (ア) 患者の状態に合わせたタイムリーなリハビリテーション医療の提供
 - (イ) 職員やチームの成果の可視化
 - (ウ) 利用者や職員に選ばれる病院

2. 質の高いリハビリテーション医療の実践と伝承
 - (ア) 持続的発展を目指した各センター（えんげ、スポーツ、高次脳機能）体制構築
 - (イ) 患者ニーズに応える医療の提供
 - (ウ) リハビリテーション医療を止めない感染防御体制の継続
 - (エ) 院内セキュリティリスクへの対策強化

3. 地域連携の強化
 - (ア) スムーズな入退院支援
 - (イ) リハビリテーション・医療福祉に関する総合相談窓口の充実
 - (ウ) 訪問診療支援システムの構築
 - (エ) 当院独自の社会復帰支援モデルの構築

4. 持続可能な経営基盤の確立
 - (ア) 時代や環境の変化に対応出来る病棟運営
 - (イ) 介護保険事業の更なる拡大
 - (ウ) 労働時間削減と生産性向上の同時実現
 - (エ) 新規企画・事業による新たな価値の創出

5. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 健康寿命延伸に向けた取り組みの実施
 - (イ) 地域と連携した災害対策の強化
 - (ウ) 地域ニーズに沿った積極的な情報発信

【数値指標】

サービス活動収益	3,787 百万円	常勤職員数	436 名			
	外来	入院		介護		
		回復期	一般	合計	通所	訪問
患者・利用者数	139 人/日	174 人/日	41 人/日	215 人/日	737 人/月	378 人/月
単価	9,900 円	42,900 円	34,000 円	41,200 円	4,770 円	8,400 円
利用率		96.6 %	91.1 %	95.5%		

聖隷袋井市民病院

2023年度は袋井市から指定管理を受託し第3期目に入り、5月には10周年を迎える。開設以来中東遠医療圏における後方支援病院としての役割を果たしつつ、“退院後の生活の支援”にも注力し、地域包括ケアシステムの一翼を担うため発展し続けている。

終息の見えない新型コロナウイルス感染症への対応など地域貢献を継続しながら、『地域No.1』の回復期・慢性期医療を提供すべく引き続き進化を続ける。一般・回復期・療養病棟それぞれの特長を伸ばす、訪問診療等業務の拡大や先駆的なリハビリテーションに取り組む、それらが地域住民に認知されることで“この病院で診てもらいたい”というサイクルをまわしていきたい。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

選ばれる病院『地域No.1』を目指す episode2

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進
 - ① 職場や委員会等の質改善指標の可視化
 - ② 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの質向上
 - ③ 終末期患者への緩和医療や看取りケアの質向上
 - ④ 利用者の利便性・満足度の向上
 - (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供
 - ① I/A レポート報告の推進と事故予防策の検討、実践
 - ② 院内感染管理体制の強化と実践
 - (ウ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実
 - ① ロボット等の先進機器の活用を含めた先駆的なリハビリテーションの提供
 - ② 摂食えんげ障害への支援の充実
 - ③ 高次脳機能障害への支援の充実
2. 地域共生社会への貢献
 - (ア) 退院後生活を見据えた支援体制の強化
 - ① 退院支援機能の向上
 - ② 訪問診療の発展

- ③ 訪問リハビリテーションの拡充
- (イ) 後方支援病院としての機能の強化
 - ① 急性期病院との密な情報交換の実施
- (ウ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援
 - ① 職員と市民の認知度向上に向けた取り組みと ACP の実践
- (エ) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案
 - ① 地域における他事業所や多職種との連携強化
 - ② 地域住民との協働による運動普及の推進
- 3. 人材の確保・育成の推進
 - (ア) 人材の確保と育成
 - ① 採用困難職種（医師・看護補助者）の採用強化
 - ② 看護補助者教育体制の充実
 - (イ) 専門性向上の支援
 - ① 認定資格等の取得促進
 - ② 資格取得後の活用体制の構築
- 4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進
 - (ア) 業務効率化の推進と労働環境の整備
 - ① 時間外労働の低減につながる業務改善
 - ② 腰痛軽減策の実施
 - (イ) 両立支援制度（育児・介護・がん）の普及啓発、活用
- 5. 経営基盤の安定化
 - (ア) 病床稼働の安定化
 - ① 入退院調整の強化
 - ② 情報発信力の強化
 - (イ) 災害対策の強化
 - ① 発災から 72 時間取るべき行動の可視化

【地域における公益的な取り組み】

- ・認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動
- ・「こころのノート」普及啓発活動
- ・新型コロナウイルス感染症への対応

【数値指標】

サービス活動収益	1,679,780 千円	職員数	197 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	45 人／日	7,600 円	-
入院	131 人／日	28,700 円	87%
再掲（回復期）	43 人／日	36,850 円	86%
（一般）	42 人／日	27,400 円	84%
（療養）	46 人／日	22,260 円	92%

保健事業部

聖隷健康診断センター 聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター
聖隷健康サポートセンターShizuoka 静岡健診クリニック
聖隷健康診断センター東伊場クリニック※

2022年4月の新健診システムの更新においては、保健事業部としての準備不足、ベンダーとの連携不足など様々な要因により、何よりも、顧客へご迷惑をかけ、結果としてこれまで築いてきた信頼を大きく損ねたことは、猛省しなければならない。また、保健事業部職員に対しても、システム不具合対応や確認作業の追加により大幅な負担増加となった。

2023年度は、保健事業部を挙げて、以下の5項目に最優先で取り組む。

第一に、「顧客からの信頼回復」である。健診の入口から出口まで安心して受診できるよう、体制・運営・業務を見直す。また、健診の質を担保するには、新健診システムの精度を上げることが必須となる。2022年度に滞ったところはもちろん、未だ見えていない範囲においても精度向上に取り組む。

第二に、「職員の労働環境の整備」である。長時間労働及び高ストレス者が発生しない管理体制を実現する。

第三に、「事業継続のための経営改善」である。わが国が本格的な人口減少社会に突入したことに加え、コロナ禍による受診者数の減少は顕在化している。今までの事業拡大基調を廃止し、健診の「鉄板事業」といえる「法定健診」及び「団体契約」を改めて事業の主軸とする。社会福祉法人として公益性の高い事業は継続しながらも、徹底した効率化を図り、減収・増益を実現できる事業体に変革する。

第四に、「組織改革」である。新システム更新を機に、情報共有の不足、役割分担と指揮命令系統の不明確、課題解決におけるスピード感の欠如等が明らかとなった。これらすべてを解決すべく、組織体制の見直しを行う。

第五に、「人材の育成」である。職員全てが「保健のプロフェッショナル」として、顧客目線での仕事ができる人材となるべく、「保健事業人」を定義し、育成し、ともに成長する。

2023年度は、新たな体制のもと、事業部理念「わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します」に立ち返り、職員が一丸となって「新しい保健事業部」を創り出したい。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. 利用者が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりが、やりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 顧客からの信頼回復 ～選ばれ続ける健診機関～
 - (ア) 安定した健診業務の運営（契約・予約から健診実施、事後フォロー、請求業務まで）
 - (イ) 健診システムの精度向上・安定稼働・スケジュール管理（契約・結果報告・請求等）
 - (ウ) 新規施設「聖隷健康診断センター東伊場クリニック」※の安定運営
 - (エ) スムーズな予約体制の整備（顧客特性に合わせた予約システムの提供）
 - (オ) 営業戦略・体制の見直し（事業部資源の活用、職員教育、顧客ニーズに合わせた企画提案、個人営業からチーム営業への転換等）
 - (カ) DX 促進によるサービス向上と効率化の両立（新 Web 予約、Web 問診等）
 - (キ) 顧客とのすべての接点での満足度向上（広告/広報/Web・プロとしての接遇・環境整備・苦情解決等）
 - (ク) 新健診システム更新におけるアクシデント分析・共有から改善へ
 - (ケ) 保健事業部の「強み」の拡大（産業保健サービス連動による付加価値の向上）
 - (コ) 山間過疎地などにおける健康診断及び予防接種等、地域の公益性が高い業務の継続実施

2. 労働環境の整備 ～健康経営・エンゲージメント向上・働き方改革～
 - (ア) 健康経営の推進（職員の働きやすさ・働きがいの追求）
 - (イ) 労務管理の徹底による職員の心身の健康管理
 - (ウ) Web 会議等 IT の活用による効率化（営業活動・面談・会議・打ち合わせ等）
 - (エ) スタッフの「やりたい」を実現するしくみづくり

3. 事業継続のための経営改善 ～事業の継続性・効率化・見える化～
 - (ア) 法定健診・団体契約（鉄板事業）を主軸とした経営への転換
 - (イ) 人員配置の見直し（鉄板事業への傾斜・DX 化・効率化等）
 - (ウ) 健診の平準化（顧客及び保健事業部にメリットのある効率的な健診受診体制）
 - (エ) 新規顧客開発、リピーターづくり、未受診者勧奨等、対象ごとへの適切なアプローチ
 - (オ) 健診（検診）事業の個別評価と見直し（非採算性事業の見直し）
 - (カ) 成果計算による事業の見える化（既存事業と実績の棚卸含む）
 - (キ) ヒト・モノ・情報の徹底した無駄の排除（効率化）

4. 組織改革 ～課題へのスピード解決・役割明確化～
 - (ア) 指揮命令系統と役割の明確化
 - (イ) 経営戦略を担う管理体制の強化
 - (ウ) 貢献意欲の高い組織風土づくり
 - (エ) 医師を積極的に活用する仕組み（部会を巻き込み 3 センターの質を平準化）
 - (オ) 事業計画指標の定期評価
 - (カ) 職制ごとの役割と責務の明確化
 - (キ) 情報の共有とコミュニケーションの改善

5. 人材育成 ～プロフェッショナル育成～

- (ア) 「保健事業部人」の育成 (①常に顧客目線で、②事業全体を理解・俯瞰でき、③自ら考えられる自立した人材)
- (イ) 事業部内教育の体系化としくみづくり (「保健事業共通の専門性」の開発・効果測定)
- (ウ) 他部署・他職種間の相互理解促進のしくみ検討

※「聖隷健康診断センター東伊場クリニック」:

沖健康クリニック (医療法人社団さわやか会) の事業譲渡に伴い、2023年4月開設
(浜松商工会議所会館6階)

【数値指標】

聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
32,757名	185名	45,167名	1,200名	25,575名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
1,980名	18,118名	124,982名	2,795,000千円	209.2名

聖隷予防検診センター、地域・企業健診センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
20,370名	-	331,408名	3,950名	48,289名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
43,231名	13,100名	460,348名	4,155,000千円	326.9名

聖隷健康サポートセンター Shizuoka、静岡健診クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
17,104名	-	96,378名	2,144名	17,996名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
7,630名	10,933名	152,185名	1,939,000千円	160.9名

事業管理部

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
-	-	16,680名	8,400名	-
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
-	-	25,080名	151,000千円	122.2名